

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センター青空		
○保護者評価実施期間	令和7年 10月1日		～ 令和7年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47人	(回答者数) 41人
○従業者評価実施期間	令和7年 10月1日		～ 令和7年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 12月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・アセスメントが充実している	毎年度当初に必ず全員に発達検査を実施してから療育をスタートしているため、こどもが現在持っている力を正しく評価・確認することで、きめ細やかな支援を個別支援計画や療育計画に落とし込むことができる。	より充実した支援構築のために、発達検査以外のインフォーマルな評価法の改訂や、正確かつ正しく評価できる人材を今後も育成すること。
2	・個別療育による丁寧なこどもへの支援	ひとりのこどもに2人の担当職員を配置し、こどもが興味を持っていることを療育に反映させて、より自立課題に取り組みやすく楽しめるような療育を提供している。また、毎回の療育計画を立案し、親担当・こども担当の二人でPDCAサイクルを回している。	人材育成の観点から、2名体制という利点を生かしながら、こどもの療育について理解を深めていく。法人内での交換実習を行い、療育・支援の経験を深めていく。
3	・個別療育による丁寧なご家族支援	療育中、ご家族に担当職員がつき、実際に目の前で療育等の流れや意図等を説明しつつ、現在の悩みやお困りごとなどを受け止め、その解消に向けてタイムリーに療育に反映させることができる。年間10回のご家族向け研修の開催。	必要な方には電話でのご相談や、療育日以外でも個別での面談を実施したり、ご家族様に寄り添った支援を行うこと。ご家族向け研修の内容を充実させ、こどもの特性の理解を促すことで、本人と家族がお互いに過ごしやすくなるように支援していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・人材育成が遅れている	・専門性が求められる職場であるので、継続的に働くスタッフを育成するための、具体的な研修や育成計画が必要。	・法人内の同一事業をしている事業所との交換実習や、人材育成を行うスキーム作り。
2	・保護者会や広報誌がない。	・過去に保護者会は存在していたが、運営が困難になり終了した経緯がある。また、広報誌についても、過去には発行していたが、業務負担軽減のために終了した経緯がある。	・SNS等で、事業所の「今」を伝えられるようにする。また、家族向け研修で保護者間の交流ができるように配慮し、グループワーク等で情報交換ができるように工夫をする。
3	・個別療育の事業所であるため、他事業所との連携や情報交換の機会が少ない。こどもの集団での困りごとを充分把握できていない場合がある	・2週間に一度のベースでの療育なので、サービス担当者会議の招集も少なく、他事業所でのお子さんの様子が十分把握できていないとはいえない。	保育所、幼稚園、他事業所の見学を積極的に受け入れ、情報交換等の場を確保する。